



## 2024年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年8月9日

上場会社名 株式会社ピー・ピーシステムズ 上場取引所 東 福  
コード番号 4447 URL <http://www.pbsystems.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富田 和久  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 彌永 玲子 TEL 092-481-5669 (代表)  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年9月期第3四半期の業績（2023年10月1日～2024年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第3四半期	1,500	△27.1	96	1.2	96	7.6	64	3.4
2023年9月期第3四半期	2,060	22.2	95	△41.2	89	△44.8	62	△45.3

  

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第3四半期	10.07	9.92
2023年9月期第3四半期	9.68	9.40

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第3四半期	1,748	1,268	72.6
2023年9月期	1,980	1,261	63.7

(参考) 自己資本 2024年9月期第3四半期 1,268百万円 2023年9月期 1,261百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年9月期	—	0.00	—		
2024年9月期（予想）				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年9月期の業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,200	10.3	347	15.1	346	17.0	237	15.3	37.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期3Q	6,583,500株	2023年9月期	6,583,500株
② 期末自己株式数	2024年9月期3Q	200,095株	2023年9月期	111,095株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期3Q	6,387,433株	2023年9月期3Q	6,428,961株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書関係) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

規模拡大に舵を切った当社は、ファーストステップとして人財増強、新拠点開設等の大幅な費用増をこなし、増収増益・6期連続最高益更新に向けた戦略を実行中です。

当第3四半期累計期間の国内経済は緩やかな回復基調で推移しました。先行きについて、当社が属する情報通信業界は日銀短観(2024年7月1日付)によると企業のソフトウェア投資計画が前期比増を示しており、IT投資の活発化が期待されます。また、システム障害やサイバー攻撃が大きな社会問題となったことで、情報システムの防御と回復(当社が提唱してきた「必須のレジリエンス」)への企業経営者の関心も一層高まりました。今後の当社のビジネス機会の拡大が見込まれます。

このような環境下、当第3四半期累計期間の業績は減収増益でした。

売上高については、SaaS事業者向け大型案件の受注時期が第4四半期にずれ込んだことにより伸び悩みました。受注の遅れは円安の進行を背景に海外メーカーとの仕入交渉が長期化した影響によるものです。当該大型案件は既に受注し、その受注金額の大半を第4四半期に売上計上する見込みとなりました(※1)。

営業利益については、採用や新事務所開設等による費用増をこなし前年を上回りました。これは前年度に営業損益を押し下げた特定案件が完了し収益が正常化したことに加え、付加価値の高い案件の増加が寄与したためです。

主な活動としては、主力のセキュアクラウドシステム事業において大手SaaS事業者への営業活動を進めるとともに、首都圏の中堅企業のハイブリッドクラウド需要を取り込みました。また、九州近郊では「2025年の崖」需要の対応や自治体のサイバー攻撃対策などレジリエンス関連の販売が好調でした。2月に開設したエンジニアハブタツトを起点に、エンジニアの技術研鑽と生産性向上にも取り組みました。人財採用の面では、当第3四半期累計期間に合計17名(新卒4名、中途13名)が入社し、今後のセキュアクラウドシステム事業の生産力と受注力の強化に向けた体制づくりは順調です。

その結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,500,884千円(前年同期比27.1%減)、営業利益は96,352千円(前年同期比1.2%増)、経常利益は96,541千円(前年同期比7.6%増)、四半期純利益は64,316千円(前年同期比3.4%増)となりました。

なお、当第3四半期累計期間の経営成績は減収増益となっておりますが、減収の理由および第4四半期での解消が明確であるため通期業績予想は据え置いており、増収増益・6期連続最高益更新の見込みです。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### (セキュアクラウドシステム事業)

セキュアクラウドシステム事業は減収増益でした。

東京オフィスを起点としてCitrix製品を核とした中堅企業のハイブリッドクラウド案件やSaaS事業者の継続的なクラウド基盤改修などの販売を積み上げました。九州近郊では老朽化した基幹システムの移行案件や旧世代のクラウド基盤の刷新案件など、中堅企業の旧式システムを最新システムへ熟練の技術でスムーズに移行する「2025年の崖」需要関連の販売が好調でした。レジリエンス関連では自治体向けプライベートクラウドの継続的なサイバー攻撃対策商品の販売が売上に寄与しました。中規模案件が順調に進捗した一方、円安の進行を背景に海外メーカーとの仕入交渉期間が長期化したことで、第3四半期に見込んでいたSaaS事業者向け大型案件の受注が第4四半期にずれ込みました。その影響により当第3四半期累計期間の売上は前年を下回りましたが、通期業績への影響は軽微です。その理由は、当該の大型案件が既に受注済み(※1)である上に、その受注金額の大半が第4四半期に売上計上される見込みであるためです。

セグメント利益についてはプロジェクト体制の強化により受注済案件が順調に進捗したことに加え、高性能なハードウェアの販売など付加価値の高い案件の増加が寄与しました。

その結果、セキュアクラウドシステム事業の売上高は1,457,164千円(前年同期比26.8%減)、セグメント利益は316,377千円(前年同期比16.1%増)となりました。

(エモーショナルシステム事業)

エモーショナルシステム事業は減収減益でした。

MetaWalkers®の宣伝効果が見込めるイベント案件や企業向けメタバースのサブスクリプション販売など、比較的小規模な案件が中心となりました。そのため、売上高とセグメント損益は前年を下回りました。MetaWalkers®についてはSusHi Tech Tokyo 2024ショーケースプログラムへの宇宙エレベータ体験装置としての出展が契機となり、宇宙産業などから引き合いが増加しました。企業向けメタバースは国策の人的資本経営が本格化する中、人財育成ニーズを持つ企業向けに企業研修サービス「心の視点と視座を高めるメンタルトレーニング in メタバース」の営業活動に取り組みました。MetaWalkers®、企業向けメタバースいずれも、新たな市場と需要の広がりが期待されます。

その結果、エモーショナルシステム事業の売上高は43,720千円(前年同期比37.1%減)、セグメント損失は7,082千円(前年同四半期はセグメント利益12,850千円)となりました。

なお、全社営業利益は、各セグメントの営業損益の合計から、報告セグメントに分配していない全社費用212,942千円を差し引いた数値となっています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

(※1) 「大型受注のお知らせ」2024年8月2日 適時開示

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の資産の部は、前事業年度末に比べて232,157千円減少し、1,748,022千円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産の減少(前事業年度末に比べて366,966千円の減少)、現金及び預金の増加(前事業年度末に比べて112,149千円の増加)、電子記録債権の増加(前事業年度末に比べて73,205千円の増加)、預け金の減少(前事業年度末に比べて57,243千円の減少)、商品及び製品の減少(前事業年度末に比べて46,321千円の減少)等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債の部は、前事業年度末に比べて239,387千円減少し、479,444千円となりました。これは主に、買掛金の減少(前事業年度末に比べて90,266千円の減少)、未払法人税等の減少(前事業年度末に比べて63,044千円の減少)、長期前受金の減少(前事業年度末に比べて30,161千円の減少)、長期借入金の減少(前事業年度末に比べて24,281千円の減少)、未払費用の減少(前事業年度末に比べて20,712千円の減少)等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産の部は、前事業年度末に比べて7,229千円増加し、1,268,577千円となりました。これは、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加(前事業年度末に比べて64,316千円の増加)、自己株式の取得による減少(前事業年度末に比べて57,086千円の減少)によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,053,734	1,165,884
受取手形、売掛金及び契約資産	523,552	156,586
電子記録債権	3,603	76,809
商品及び製品	236,594	190,273
仕掛品	9,981	19,210
原材料及び貯蔵品	235	59
未収入金	40	—
未収法人税等	—	22,255
前払費用	24,961	23,132
預け金	64,200	6,956
その他	—	444
流動資産合計	1,916,903	1,661,612
固定資産		
有形固定資産		
建物	946	15,204
減価償却累計額	△268	△390
建物(純額)	677	14,814
構築物	2,195	2,195
減価償却累計額	△1,922	△1,963
構築物(純額)	272	231
工具、器具及び備品	40,637	48,708
減価償却累計額	△34,000	△34,679
工具、器具及び備品(純額)	6,636	14,028
有形固定資産合計	7,586	29,074
無形固定資産		
ソフトウェア	20,811	21,578
ソフトウェア仮勘定	3,746	6,209
電話加入権	164	164
無形固定資産合計	24,722	27,952
投資その他の資産		
投資有価証券	2,858	2,597
出資金	30	30
敷金	8,730	18,800
差入保証金	1,019	1,019
長期前払費用	102	64
繰延税金資産	18,226	6,869
投資その他の資産合計	30,967	29,381
固定資産合計	63,276	86,409
資産合計	1,980,179	1,748,022

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	180,989	90,723
1年内返済予定の長期借入金	41,810	33,284
未払金	29,913	18,944
未払費用	54,587	33,875
未払法人税等	63,044	—
未払消費税等	17,873	4,698
前受金	175,484	182,364
預り金	10,761	14,158
賞与引当金	—	19,715
受注損失引当金	9,127	881
流動負債合計	583,591	398,645
固定負債		
長期借入金	24,281	—
長期前受金	110,959	80,798
固定負債合計	135,240	80,798
負債合計	718,832	479,444
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	350,264	350,264
資本剰余金		
資本準備金	350,264	350,264
資本剰余金合計	350,264	350,264
利益剰余金		
利益準備金	165	165
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	646,260	710,576
利益剰余金合計	646,425	710,741
自己株式	△85,606	△142,693
株主資本合計	1,261,347	1,268,577
純資産合計	1,261,347	1,268,577
負債純資産合計	1,980,179	1,748,022

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
売上高	2,060,153	1,500,884
売上原価	1,636,995	1,011,401
売上総利益	423,157	489,483
販売費及び一般管理費	327,960	393,131
営業利益	95,197	96,352
営業外収益		
受取利息	4	5
助成金収入	2,160	—
雑収入	283	1,095
営業外収益合計	2,448	1,101
営業外費用		
支払利息	483	251
保証料	132	280
上場関連費用	7,270	—
支払手数料	—	142
投資事業組合運用損	—	236
営業外費用合計	7,886	911
経常利益	89,759	96,541
特別損失		
固定資産除却損	—	487
特別損失合計	—	487
税引前四半期純利益	89,759	96,054
法人税、住民税及び事業税	28,776	20,380
法人税等調整額	△1,224	11,357
法人税等合計	27,552	31,738
四半期純利益	62,206	64,316



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年9月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式89,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期累計期間において自己株式が57,086千円増加し、当第3四半期会計期間末において自己株式が142,693千円となっております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	6,379千円	10,085千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	1,990,598	69,554	2,060,153	—	2,060,153
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	1,990,598	69,554	2,060,153	—	2,060,153
セグメント利益	272,602	12,850	285,453	△190,255	95,197

- (注) 1. セグメント利益の調整額△190,255千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	1,457,164	43,720	1,500,884	—	1,500,884
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	1,457,164	43,720	1,500,884	—	1,500,884
セグメント利益又は 損失(△)	316,377	△7,082	309,295	△212,942	96,352

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△212,942千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。